

- D 71 男子中学・高校生のファッション意識（第1報）ファッションに関する意識と知識
昭和学院短大 ○伊藤千恵 高野倉睦子 東京家政学院大家政 田中弘美
山梨県立女短大 小菅啓子 共立女大家政 小林茂雄

<目的>今日の消費生活においては、ファッションに関する物質および情報があふれ、男性のファッションに対する関心度も著しく増加している。このような状況のなかで、自我意識が増大し、また自己概念の発達の間でも重要な時期にある中学・高校生には、着装行動や購買行動に変化がみられるようになってきている。そこで、男子中学・高校生を対象にファッションに関する意識と知識について調査し、彼らの特徴について比較検討した。

<方法>東京都内の公立中学1年生、高校1年生の男子生徒それぞれ182名、175名を対象に、ファッション意識に関する35項目、ファッション知識に関する11項目について、1991年11月にアンケート調査を実施した。調査データは平均値の差の検定、因子分析、因子得点とファッション知識との相関分析などにより解析した。

<結果>因子分析により、中学生の場合には12個、また高校生の場合には10個の基本的因子が抽出された（固有値1.0以上、累積因子寄与率は中学生66.7%、高校生63.1%）。これらの因子は中学生、高校生の場合とも、おしゃれ表現性、同調性、規範性など、ほとんど同じ因子が抽出された。また、高校生は時計、小物など積極的におしゃれを表現しようとしているが、中学生にはその傾向はみられなかった。ファッション意識の第1因子（おしゃれ因子）とファッション知識との関連については、相関係数の有意性の検定の結果、中学生、高校生ともに、ブランド名との間に相関がみられたが、その程度は中学生よりも高校生の方が大きい傾向を示した。